

令和4年度 北海道小学校長会地区活性化支援事業【実践事例レポート】

- 1 報告地区：宗谷地区
- 2 事例報告学校名：稚内市立宗谷小学校
- 3 報告者職・氏名：校長 工藤 真
- 4 キーワード：地域に根差し、地域とともに歩む学習活動の推進

1 はじめに

宗谷小学校は、稚内市役所がある市街地から北に約24kmに位置し、全校児童21名、学級数3学級の小規模複式校である。明治25年に開校し、今年度は130周年の節目を迎える稚内市で最も古い歴史と伝統ある学校である。歴代の教職員により地域に根差した教育活動が行われてきた。

稚内発祥の地、漁業中心の地域という特色を生かし、様々な教科と横断的な学習を進める「地域に根差した学校づくり」が行われている。

2 実践紹介

(1) 地域の産業に根差した学習を通して

① 宗谷水族館の取組

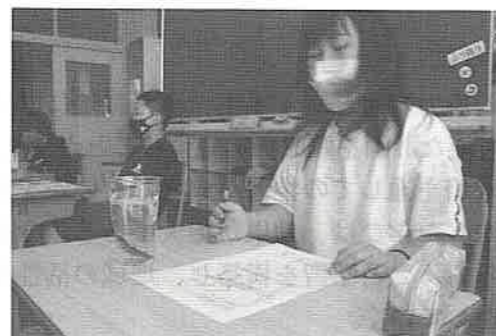
本校には100周年を迎えた際、学校と地域が連携し、縦90cm×横180cm×奥行き90cmの大型の水槽が正面玄関に設置した。毎年、ゴールデンウィーク明けに漁業関係者の保護者がPTA活動として、大型水槽への海水の注水作業を行い、前浜にいる海洋生物を提供していただいている。児童はそれらを授業で観察するなど、前浜の海の中で行われている、海の生き物の日常的な活動を学び取っている。時には食物連鎖の場面等も見られ、生き物の生活環境についても学びを深めている。



② 「磯遊び」の取組

本校は宗谷湾に面しており、学校の前浜は200mの遠浅の海となっている。それを活用し、毎年2学期の始業式後に「磯遊び」という活動を行っている。低学年は生活科の観点から、中・高学年は総合的な学習の時間の地域に関連した内容の観点から、前浜の海洋生物を採取し、学校へ持ち帰って、その特徴や生態などを調べる学習を行っている。この学習には外部人材として稚内ノシップ水族館の学芸員の方々に来校いただき、一緒に海に入ってもらいながら、採取の仕方や珍しい生き物の名前を教えていただいている。

教室では、持ち帰った海洋生物から1匹選び、その特徴を絵や文章で表現し、クラスごとに発表を行っている。ともすると、日常すぎて関心の向かないことへ、この学習を通じてアプローチすることになる。結果、自身の住んでいる地域のよさやこの自然を守っていくための大切さなど、横断的な視点で他の学習にも生かしている。また、これらの学習を深めるために、中高学年では地域の様々な漁業形態（ホタテ漁、タコ漁、ナマコ漁、コンブ漁など）に焦点を当て、地域人材を活用しながら、より密度の濃い学習を推進しており、中学校での産業教育（採取と加工品生産体験）へとつなげている。



(2) 地域の特性を生かした学習を通して

① 地域の観光資源を活用した取組

本校は稚内の発祥の地であり、多くの史跡や観光資源を有している地域にある。また、10年前に新たな観光資源となった景観豊かな「白い道」や近隣地区には宗谷岬があり、毎年多くの観光客が訪れる地域でもある。その資源を活用し、生活科や総合的な学習の時間などで、フィールドワークを行い、地域の史跡や観光資源について調べる活動を行っている。本校敷地内にも砲台跡地の史跡が残されており、宗谷の地がどのようにして開かれたかなど、地域人材の活用や市役所観光課などにも協力を得て、横断的な学習活動を通して、地域を愛する心の育成とふるさと教育を行っている。



② 地域性を考えた学習活動の取組

本校は宗谷湾沿岸にあるため、津波など海に関わる防災意識を高めることが常に求められる。しかしながら、海と共に暮らすという視点からいうと、そのような防災意識が薄い傾向がある。そのため、避難訓練と併せて、気象庁や消防署の職員の方々に外部講師として来校いただき、必ず講話の時間をに入れて防災意識を高めるような学習活動を行っている。また、海が近いため日常的に海難事故等も考えられることから、今年度より「着衣水泳」を実施している。着衣水泳の大変さを実感し、海難事故防止の意識を高め、「自分の身は自分で守る」という意識の醸成につながっている。



③ 学校行事として地域と関わる取組

本校では、春と秋の2回、PTA活動とタイアップさせて、奉仕活動の一環として「リサイクル品回収」を行っていたが、資源の減少とその多くはPTAの方々の活動がメインになることから、児童の奉仕活動としての目的は不十分であると判断し、今秋からは「地域清掃活動 クリーン作戦」に変更した。縦割り班の高学年がリーダーシップをとり、決められたエリアの清掃活動を行った。本校沿線は国道238号線沿いにあり、基幹道路や観光道路となっていることから交通量が多い。子どもたちはゴミが予想外に多かったことに驚き、宗谷の街を自分たちが守っていくという意識を高めることにつながっている。今後は、敬老会等とタイアップしながら、推進していきたいと考える。



3 おわりに

宗谷沿岸地域は歴史と伝統に基づいた地域特性があり、地域住民も宗谷の地を愛する心、宗谷の地を作ってきた自負に満ちている。そういった意味では、すでにコミュニティ・スクールができ上がっていると考えられるが、そのような地域の中で、学校と地域が子どもたちの成長のために、何を学ばせるか、何をできるようにさせるか、将来を見据え、どのような資質・能力が必要かをしっかりと話し合っていく必要がある。

稚内市でも令和5年度よりコミュニティ・スクールが本格的に始動する。新型コロナウイルスの広がりや働き方改革、GIGAスクールなど、教育を取り巻く環境が急速に変化している中、これらを推進しつつ、地域コーディネーターとの連携を図りながら、時代の要請に応える地域連携活動を更に推進していくことが必要である。ただ、これまでと同じようにできること、形を変えていかなければならないものをしっかりと見極め、よりよい地区活性化支援事業を構築していくことが、この地域に住む校長に求められているものと考えている。